

「地産・地消」消費者交流 安全・安定モデル地域交流会の開催

昨年度より実施しております「畜産物安全・安定供給相互理解体制推進事業」のモデル地域交流会を本年度も開催いたしました。この交流会は、消費者・学校関係者などと畜産関係者が信頼関係を深め、生産から消費までの相互理解を図る体制を構築することを目的としています。

11月29日（月）開催の村上地域交流会では、村上牛生産者の菅原健一氏による村上牛生産協議会の経緯・取り組み等が紹介されました。また、JAにいがた岩船・佐藤常務理事による村上牛友の会の活動内容報告、全農新潟県本部・本間副審査役による食肉の流通とトレーサビリティシステムについての解説など、生産者と畜産関係者が様々な努力をして安全・安心な牛肉を生産していることを消費者の皆様へPRすることができたと感じております。



JAにいがた岩船・会議室にて

～以下、消費者アンケートより抜粋～

- ・今日の交流会に出席し、大変良い勉強をさせていただきました。生産者の方、今後とも大いに頑張ってください。
- ・畜産農家の努力をお聞きして、大切に食べなければと思いました。牛への愛情を食べる立場でも受け止めて、美味しい食べ方・無駄のない食べ方に努めたいです。
- ・村上牛を生産されている方の顔が分かりました。もう少し価格が安ければもっと購入する機会が増えるのではと思いました。
- ・生産者のご苦労があってこそ良い肉ができるのだと感じました。
- ・村上市内に住んでいても、村上牛を提供している店で食事したことがありません。今日の話聞き、今度食事してみたいと思いました。
- ・12月からトレーサビリティシステムの導入が始まると聞き、これからの日本の牛肉は安心だと感じました。



取り組みについて発表する菅原健一氏

～新潟県からのお知らせ～

平成17年2月1日現在で

2005年農林業センサス を実施します

▽みなさまのご協力をお願いします▽

新潟県総合政策部 統計課

農林業センサスは、我が国の農林業・農山村の現状と動向を明らかにして、農業・林業行政の推進に必要な統計データを整備・提供することを目的として、農家や林家など農林業を営むすべての世帯・法人を対象に5年ごとに実施している調査です。

編集後記

10月23日の「中越大震災」が発生し50日が過ぎようとしています。カレンダーを見てもう「師走」であり、今年には自然災害の驚異を目の当たりにした年でありました。畜産経営における「自然災害に対する危機管理」はいかにあるべきかをまざまざと問われた1年であったように思います。地域においては経営再建に向け懸命な復旧の努力がなされており、まったく頭の下がる思いであります。幸いにして、例年見られる県内の初雪のたよりはまだありません。豪雪に閉ざされる前に少しでも震災前の生活にもどれることを祈る気持ちで一杯であります。

「元気だしていこー！ 新潟の畜産」 (花田記)